

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

数式が苦手でも

物理の面白さがわかる本

『宇宙を動かす力は何か』

——日常から観る物理の話——

松浦壮（商学部准教授）著
新潮新書／842円（2015年11月）



素粒子物理学の研究と並行して、商学部に物理学を教えている著者が、数式を見ただけで拒否反応を起こしがちな文系人間のために、数式を一切使わず、わかりやすい言葉で、物理学の大切さ、素晴らしさを伝えてくれる。

AKB48の総選挙を分析して「あらゆる物事の背後に理が潜む」ことを説明し、フィギュアスケーターの滑りの話題から、ニュートンの運動三法則へと導くなど、物理学の面白さを明快に解きほぐしながら、やがて、紙上の講義は宇宙と重力の関係、アインシュタインの相対性理論へと及んでいく。果たして、宇宙を動かす力とは何か。

教職員執筆の新刊

●今井むつみ（環境情報学部教授）著

『学びとは何か―〈探究人〉になるために』岩波新書／864円（2016年3月）

●川本 明（経済学部特任教授）・小林慶一郎（経済学部教授）ほか著

『世の中の見え方がガラッと変わる経済学入門』PHP研究所／1620円（2016年3月）

●伏見岳志（商学部准教授）ほか編

『女性から描く世界史―17〜20世紀への新しいアプローチ』勉誠出版／3456円（2016年4月）

●高桑和巳（理工学部准教授）著

『アガンベンの名を借りて』青弓社／3240円（2016年4月）

●友岡 賛（商学部教授）著

『会計学の基本問題』慶應義塾大学出版会／4644円（2016年5月）

●山内志朗（文学部教授）著

『感じるスコラ哲学―存在と神を味わった中世』慶應義塾大学出版会／2160円（2016年5月）

慶應義塾この一冊

『行動する文学部』

慶應義塾大学文学部著
慶應義塾大学出版会／1080円
（2016年4月）



文学部創設125年記念として昨年開催された、聴衆に高校生を交えた公開講座「行動する文学部」を編集した一冊。第一章は塾員水卜麻美君（日本テレビアナウンサー）と井上逸兵教授の言葉を巡る対談、第二章では熱気を帯びた哲学カフェ実況、第三章はアプリ（慶應時空ぶらっと）と都市空間をテーマにした鼎談、第四章ルソーによる自然の美の発見の物語と、容貌や姿に現れる身体美についての講演と質疑応答、以上の4部構成で、現在の文学部における学びの行動力と躍動感を伝える。